## 異物除去 Ⅱ

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

刺さったスティックや臓器内に食い込んでいる骨片を回収して傷痕を治療する術式。傷口から発生している血だまりを吸い取ったら、ピンセットで異物を引き抜いて回収トレイへ運ぶ。そのあとに傷口を縫合すれば処置完了だ。

異物除去Ⅱの評価は２ヵ所用意されており、異物を回収したときと、傷口を縫合したときに評価が表示される。最初の評価は異物除去Ⅰと同じで、「抜いた角度」「抜きミス回数」、「異物を落とした回数」の３つが影響する。縫合時の評価は裂傷と同じで、傷口の縫いかたで決まる。




異物はトレイからはみ出すが、ピンセットがトレイに乗っている状態で離せば回収できる。ピンセットの位置に注意。

**評価ポイントに関わる要素**

- 正しい角度で異物を引き抜く
- 引き抜いた異物を落とさずにトレイまで運ぶ
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右の幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

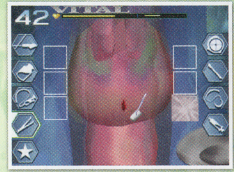
【手 順】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ドレーン | 血だまりを吸い取る |
| 2 | ピンセット | 異物を引き抜き、トレイへ運ぶ |
| 3 | 針と糸 | 傷口を縫う |

## 異物除去 Ⅲ

▶使用器具 ▶評価ポイント

埋まった異物を回収し、傷痕を治療する術式。最初に異物の影をスキャナで表示させ、影の部分をメスで切開し、異物を露出させる。このとき、影を表示させないとメスで切開することはできず、影が消えた場合は再度影を表示させる必要がある。異物の露出に成功すれば、あとはピンセットでつかんで回収トレイに運び、切開口をヒールゼリーで治療すれば処置完了。評価ポイントはないが、異物を術野に落とすと「Miss」になるので油断せずに処置をしよう。




露出した異物をピンセットでつまんでトレイに運ぶ。抜く角度を気にすることなく、ピンセットを動かそう。

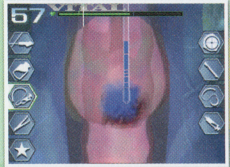
【手 順】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | スキャナ | 臓器内にある異物の場所を特定する |
| 2 | メス | 切開して異物を露出させる |
| 3 | ピンセット | 異物をトレイへ運ぶ |
| 4 | ヒールゼリー | 傷口に塗る |

## 薬液除去

▶使用器具 ▶評価ポイント

患部に漏れた薬液を取り除く術式。薬液にドレーンをあて、「Ok」と表示されるまで吸い続ければ処置完了だ。発生中は下にある患部の処置はできなくなるので、この術式を優先しよう。血だまりよりも長く吸引し続ける必要がある。




一定時間放置しても薬液は広がらないが、薬液の下にある患部の処置ができないため、さきに吸引しておくこと。

【手 順】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ドレーン | 薬液を吸い取る |

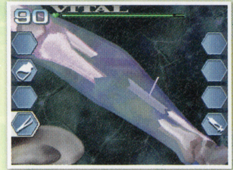
## 骨折処置

▶使用器具 ▶評価ポイント

回収した骨片を配置し、骨片を定着させる術式。刺さっている骨片は異物除去ⅠまたはⅡの術式で回収すること。回収した骨片は追加トレイに置かれるので、ピンセットでつかみ、正しい場所に配置していこう。このとき、骨片の裂け目を手掛かりにするといい。骨片を間違った場所に置いたり、術野に落とした場合は「Miss」になり、トレイの上にその骨片が戻される。骨片の配置がすべて終わったら、ヒールゼリーを「Ok」と表示されるまで骨片に塗って定着させよう。




曲がった骨は矯正する必要がある。骨を正しい位置までスライドさせるとピンセットが自動で外れて処置完了だ。




裂け目が一致するか確認し、正しい位置で骨片を離そう。設置に成功するとつぎの骨片がトレイの上に出現する。

【手 順】

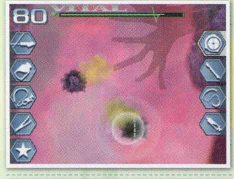
| | | |
|---|---|---|
| 1 | ピンセット | 追加トレイにある骨片を配置 |
| 2 | ヒールゼリー | 配置した骨片を定着させる |

## 腫瘍

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

ボーウェル法と呼ばれる腫瘍摘出の術式。まずは臓器内に隠れている腫瘍を露出させるのだが、スキャナで腫瘍の影を表示させると腫瘍摘出時の評価が「Good」以下になってしまう。影を表示させれば切開が容易だが、「Cool」評価を狙うなら、事前に腫瘍の位置を覚えておく必要がある。

腫瘍の位置がわかったら、メスで患部の中央を切開して腫瘍を露出させる。その後、組織液をドレーンで吸い取り、ガイドラインに沿って腫瘍を切り離す。あとはピンセットで腫瘍を摘出すれば、それまでの評価が表示される。影表示以外にも「吸引した組織液の復活回数」、「切り取った腫瘍を術野に落とした回数」も評価に影響するので慎重に行ないたい。なお、腫瘍を摘出すると必ず切除痕が残る。切除痕を処置するときは、追加トレイにある人工膜を切除痕に乗せ、ヒールゼリーで定着させれば処置完了。ただし、腫瘍を回収トレイに乗せたときに、小腫瘍（38ページ参照）や膿（41ページ参照）が発生する場合がある。小腫瘍の処置は後回しで問題ないが、切除痕内や周辺に膿があると人工膜が乗せられないので、事前に処置すること。




腫瘍の位置がわからない場合はエコーで患部を探す　ピンポイントで患部に当てると、一定時間影が表示される。




メスで切開するときも影の有無が評価に関係してくるが、影を表示させた時点で「Cool」は取れなくなっている。




ガイドラインが消えて組織液が復活すると、組織液の吸引からやり直しになる。評価も下がるので一気に切開したい。

【手 順】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | スキャナ | 患部の位置を特定する |
| 2 | メス | 腫瘍を露出させる |
| 3 | ドレーン | 組織液を吸い取る |
| 4 | メス | ガイドラインに沿って腫瘍を切り離す |
| 5 | ピンセット | 切り離した腫瘍をトレイへ運ぶ |
| 6 | ピンセット | 切除痕に人工膜を乗せる |
| 7 | ヒールゼリー | 人工膜を定着させる |

**評価ポイントに関わる要素**

- 腫瘍の影を表示させずに患部を切り開く
- 組織液が再発するまえにメスで腫瘍を切り取る
- 切り取った腫瘍を落とさずにトレイへ運ぶ